

## 第2学年 道徳科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日(〇)〇校時  
学 級：第2学年〇組〇名  
場 所：2年〇組教室  
授業者：〇〇 〇〇

1 主題名 たいせつなかぞく【内容項目 C 家族愛、家庭生活の充実】

2 教材名 「おばあちゃん お元気ですか」(「小学道徳 生きる力 2」 日本文教出版)

### 3 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について(道徳的価値観)

小学校低学年において、児童は家族から守られ、家庭生活において受け身の立場であることが多く、してもらって当たり前という意識がある。そこで、父母や祖父母がいるから今の自分があることや、無償の愛で育ててくれていることなどに対して、敬愛の気持ちをもてるようにしていきたい。そして敬愛の念から、家族の一員として役に立つ喜びを感じられるようにしていくことが大切である。

#### (2) 価値に関わる児童の実態について(児童観)

本学級の児童は、日ごろの会話や日記などから、家族との関わりを大切にしている様子が見え、家族から精神的にも経済的にも多くの恩恵を受けて生活を送っている様子が見られる。しかし、子どもたちは、その恩恵を当たり前として過ごしていたり、自分が家族に対して何気なく行っていることが、家族のためになっていることに気付いていないこともある。積極的に家族と関わり、家族の一員として自分も行動していくことで、家族のために役に立つ喜びを感じられるようにしていきたい。

#### (3) 教材について(教材観)

本教材は、主人公のてつやと、少し離れた町に住んでいるおばあちゃんのやり取りが中心である。忙しい母に代わり、てつやの面倒をみていたおばあちゃんだったが、頻りに会いに来られなくなり、電話や手紙でやり取りをすることが多くなった。てつやの誕生日には、おばあちゃんからプレゼントが送られ、手紙が添えてあり、直接会って渡せなかったことが残念だという思いが綴ってあった。それを読んだてつやは、おばあちゃんにメールで写真を送ることにし、その返事を楽しみに待っているという内容である。

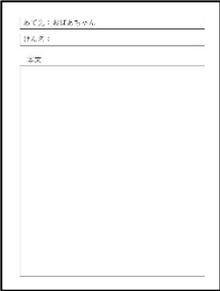
活用にあたっては、児童が自分の経験と重ね合わせながら、てつやの心情にせまることを通して、家族に大切にしてもらっていることに気づき、家族の役に立とうとする気持ちについて考えられるようにしていきたい。

### 4 本時のねらい

家族に愛され、大切にしてもらっているてつやの気持ちを考え、父母、祖父母を敬愛して家族のために、その思いを伝えて、家族の役に立とうとする道徳的心情を育てる。

## 5 本時の展開

時間	学習活動・主な発問	予想される児童の思い	教師の支援と評価
導入	<p>1. 自分にとって大切な人について考える。</p> <p>○自分にとって大切な人はだれですか。また、それはどうしてですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お父さん、お母さんなど、いつも一緒に過ごしている家族。</li> <li>・おじいちゃん、おばあちゃんなど、少し遠いところにいる親戚</li> <li>・〇〇してもらったから。</li> <li>・自分のことを大切にしているから。など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発言をウェビングマップにまとめながら、可視化する。</li> <li>・なぜ、その人が大切なのか問いかける。</li> <li>・人によって大切だと思う価値観が異なることにもふれる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>学習のめあて：大切な家族のためにどのようなことができるでしょう。</p> </div>			
展開	<p>2. 教材文「おばあちゃん お元気ですか」を読んで話し合う。</p> <p>○おばあちゃんに昔話をしてもらったり、遊びを覚えてもらったりした時のてつやは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffff; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">感情を確認</div> <p>○てつやがおばあちゃんと電話をするとき「おばあちゃん、元気ですか。」のあいさつではじまるのはどうしてでしょう。</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffff; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">原因を特定</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の知らないことを教えてもらうので、うれしい気持ち。</li> <li>・いつも会えるわけではないので、楽しみにしている。</li> <li>・本当は会いたい気持ち。</li> <li>・おばあちゃんは元気になっているか、心配している気持ち。</li> </ul>	
	<p>◎てつやは、おばあちゃんにどのようなことを伝えましたか。 (中心発問)</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #e0ffff; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">対応を検討</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがたい気持ちを伝える。</li> <li>・プレゼントと一緒に写真を文書と一緒に送る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説話の中でお母さんが送っていたメールを模した様式を用意し、模擬メールを作成できるようにする。それを1人1台端末上で配付し、児童一人ひとりが書き込めるようにする。</li> </ul>

			<p><b>評価</b> 発言</p> <p>自分事として捉え、てつやの気持ちを汲み取りながらメッセージを書くことができたか。</p>
終末	<p>3. 家族のためにどのようなことができそうですか。</p> <p><b>行動の準備</b></p> <p><b>対話するポイント</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもごはんを作っているときは、お手伝いをしよう。</li> <li>・おばあちゃんが元気になっているか、電話をしてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童自身が、大切な人を思う気持ちを表すために、自分にできることを考えられるようにする。</li> </ul>

☆ 資料

・教材文

てつやのおばあちゃんは、少しはなれた町にすんでいます。

てつやは、小さいころ、よくおばあちゃんとあそびました。おかあさんが、お店のしごとでいそがしくしていたので、おばあちゃんに来てくれていたのです。

おばあちゃんは、いつも楽しいむかしばなしをしてくれたり、おばあちゃんの子どものころのあそびを教えてくれたりしました。

てつやが、学校に通うようになってからは、おばあちゃんは、うちへ来ることがだんだん少なくなりました。

「てつやの顔は見たいのだけれど、このごろは、バスにのるとつかれるようになってね。」  
と言っているそうです。

それで、てつやはときどきおばあちゃんと電話でお話することにしています。ならったばかりの字で、一生けんめい手紙を書くこともあります。

手紙でも、電話でも、いつもきまって、おばあちゃん、お元気ですか。ぼく、とっても元気だよ。」  
の、あいさつではじまります。

きょうは、てつやのたんじょう日です。おばあちゃんが、プレゼントと手紙をおくってくれました。  
手紙には、こう書いてありました。

おたんじょう日、おめでとう。

てつやのたんじょう日なのに、おばあちゃんはようじがあって行くことができません。プレゼントをおくります。てつやの顔が見られないのがとてもざんねんです。

てつやは、

「おばあちゃん・・・。」

と小さな声で言いました。

すると、おかあさんが、

「しゃしんをとってメールでおばあちゃんにおくりましょう。」

と言って、てつやのしゃしんをとると、いつものことばといっしょに、すぐにメールで送ってくれました。

「おばあちゃんはどんなへんじをくれるかな。」

そう言ったてつやの目はかがやいていました。